

福島・いわき・小名浜支援レポート

浜通り医療生協・小名浜生協病院支援活動報告(東京民医連)

2011年4月26日(火) No.2

4月26日(火)の活動

◆浜通り医療生協組合員訪問による震災後の無事確認行動。

◆行動の概要

午前:	行動参加:	22人(職員9人、理事・組合員4人、支援7人、ボランティア2人)
	訪問件数:	169件
	対話件数:	68件
午後:	行動参加:	18人(職員6人、理事・組合員3人、支援者7人、ボランティア2人)
	訪問件数:	200件
	対話件数:	98件

被害が大きかった豊間・江名・永崎・下神白・湘南台地区の組合員宅を訪問し、後片付けをする方々と対話。海岸部の住宅はほとんどが全壊・半壊の状態で、山沿いも津波による床上浸水の爪痕が今も残されている。

高齢世帯の組合員からは、「どこから手をつけていいか分からぬ」という困惑の声と、原発事故への不安が寄せられた。



4月28日(木)～29日(金)に、床上浸水した組合員宅の「片づけ隊」を組織する予定です。日時調整して、明日お知らせします。

◆◆◆ 訪問活動トピックス・被災者の声 ◆◆◆

- ◆永崎地区沿岸部、津波で家が全壊のお宅、取り壊しを決めたお宅も多く、実際の被害の大きさを目の当たりにして言葉を失った。住まいをなくされた方への支援が必要と感じた。
- ◆豊間地区は全壊・半壊の家がほとんどで、組合員の無事確認ができなかった。家屋に貼ってある連絡先の貼り紙をメモしてきたので連絡が必要だと思う。
- ◆豊間地区。津波被害が多い地域で、建物の損壊状況を確認した。大半の家が全壊で、家が残っていても解体承諾と連絡先が貼られていた。39件中33件が津波で家が流出。地域全体が瓦礫の山だった。ほとんどの方が避難しているので避難所での無事確認が必要。
- ◆湘南台。多くの人が話すことや接することを望んでいる様子だった。16件中2件で屋根の損壊あり。全体的には被害少ない。
- ◆湘南台。約1割の家屋で瓦の落下などがあったが、生活には支障なし。日中独居の高齢者で、うつ傾向の方や高血圧の方がいた。
- ◆永崎地区。家の形は残っているものの10件近くは全壊・半壊状態。対話できた組合員さん宅はほとんどが床上浸水。
- ◆豊間地区。海側はほぼ壊滅状態。山側は半壊・全壊はしていないものの半分ぐらいの家に水が入り、地震で壁が壊れたりしている。
- ◆下神白網取地区。やっと水道が復旧。高台なので被害は少なかった様子。下の道路沿いは1階は浸水。先日の雷で家の家電が被害を受け、地震に加えて大変だという方がいた。漁業の男性は船がダメになって漁にも出られない…。
- ◆永崎地区。札幌市立大の看護チームが江名中避難所に詰めており、健康相談や訪問を行なっていた。約80人の避難者あり。

【東京民医連事務局短信】▼4/26午前の訪問隊を送りだした後、佐藤(浜通り医療生協組織部)と吉田(東京民医連事務局)・田村(健生会企画部)で打ち合せを行ないました。朝の打ち合せで出された意見をもとに、『打ち合せの進め方(手順書)を新たに作成し、訪問行動マニュアルも補強して、行動参加者の疑問にきちんと答える内容にバージョンアップしました。▼支援に来る方への連絡です…。天候が不安定で、黒雲が瞬く間に広がり雨が降りだすような天気が続いている。こちらに来る時は、傘などの雨具を持参してください。お手数をおかけしますが、よろしくお願ひします。(田)